

高めよう 家庭・地域の防災力



災害への備え・助け合いには、「自助」「共助」「公助」があります。

自助は、個人や家庭での備え。共助は、地域の住民同士が共に支え合うための備えと実践。公助は、公的機関が行う各種の施策や支援のことを言います。

大規模な災害が発生したとき、安全に迅速に被災対応するためには、自助と共助がもつとも大切といわれていますが、平常時に準備や訓練を行っていないと、災害発生時には、自助も共助も、その機能は働きません。

家庭や地域の防災力を高めるため、自助・共助を磨き、いざというときに備えましょう。

平成28年3月11日で、東日本大震災から丸5年を迎えます。

1000年に一度と言われる大地震が襲ったあの日、わたしたちは、多くを失った代わりに、多くの教訓を得ました。

宮城県沖を震源とする地震は、これまで周期的に繰り返されており、必ず、次の大規模な地震が発生すると言われていました。

東日本大震災から5年の節目。家庭や地域の防災力を高めるため、家庭や地域での防災や減災について考えてみましょう。

☎ 防災安全課 危機防災担当
☎ 23-5144

「自助」

個人や家庭における 防災・減災対策

家具などの落下・転倒防止

タンスや食器棚が倒れたり、中身が飛び出してこないように家具を固定しましょう。ホームセンターなどでは、さまざまな転倒防止グッズが販売されています。

二次被害の発生を防止

【火災の防止】
暖房器具の自動消火装置の定期点検

- ・防災加工カーテンに取り換える
- ・ガスレンジなど火元の周りの不燃化と整理整頓
- ・消火器の設置と定期交換
- ・住宅用火災警報器の設置と定期交換

【ケガの防止】

- ・割れたガラス対策として、スリッパの準備、飛散防止フィルムを貼る
- ・ガラス戸の近くに家具を置かない

安否の連絡方法

大規模災害時は、電話や電子メールの利用が制限されますが、その代わりに、「災害伝言ダイヤル」や「災害伝言板」など

どがあります。家族の安否を確認するための連絡方法をあらかじめ決めておきましょう。

避難所や避難経路を確認

避難に備えて、自分ほどの避難所へ行けばよいか確認しましょう。また、避難所まで安全・迅速にたどり着ける経路も確認しておきましょう。

非常持出品の準備

非常持出品は、避難のため家を離れる場合などに、最低限、持っていくべきものです。それぞれの家庭の事情に合わ

せて、必要なものをそろえましょう。

【持ち出し品の例】

現金(小銭)、通帳、印鑑、懐中電灯、ラジオ、電池、マッチ、ライター、ロウソク、缶切り、非常食(乾パン・缶詰・ビスケット・飲料水など家族3日分)、毛布、衣類、救急セット、赤ちゃんがいる場合は、粉ミルク・ほ乳瓶・紙おむつなど、お年寄りがいる場合は、看護用品・常備薬・介護用おむつなど。

非常備蓄品の準備

災害時に、最低でも家族全員が3日間乗り切れる程度の

準備をしましょう。

【食糧】

缶詰、レトルト食品、栄養補助食品、調味料などの長期保存がきくもの

【飲料水】

大人1日3リットルを目安に、少なくとも3日分

【燃料】

卓上コンロ、ガスボンベ、固形燃料など

【その他】

毛布、寝袋、洗面用具、ドライシャンプー、ラップ、使い捨てカイロ、ロープ、ボールやスコップなどの工具、マスク、トイレットペーパー、新聞紙、簡易トイレ、予備のメガネ、自転車など



いつ何が起こるか分からない時代 備えだけは万全にしています



伊藤 友和さん
(古川地域)

わが家では、家具の固定をはじめ、非常持出品や備蓄品の準備(家と車にそれぞれ保管)を行い、年に1回は、食糧の賞味期限や電池残量を確認しています。また、家族で避難場所を確認するなどの防災対策を行っています。

震災当時は、愛知県に住んでいたのですが、被害は無かったのですが、当時、6カ月の息子のミルクや紙おむつなどの必需品が、愛知県でも品薄となり、なかなか手に入らなかったことがありました。

そんなことから、自分たちの身は自分たちで守るという防災意識を持って、災害への備えだけは、万全にしておこうと努力をしています。

災害時の安否の連絡は「災害伝言ダイヤル」を利用しましょう

大きな災害が発生すると被災地への電話が殺到し、回線が大変混雑します。東日本大震災の直後も、携帯電話事業者によっては、最大で平常時の約50から60倍以上の通話が一時的に集中しました。

通信各社では、通信の混雑の影響を避けながら、家族や知人との間で、安否の確認などをスムーズに行えるよう、固定電話、携帯電話、インターネットによる「災害伝言サービス」を提供しています。詳細は、各社ウェブサイトなどで確認してください。

▶ 災害伝言ダイヤルに「録音する方法」

操作の手順は、すべて音声案内に従って進めてください。

- ①「171」へダイヤルする
- ②「1」をダイヤルする
- ③ 自宅(被災地)の電話番号(固定電話)、または、連絡したい被災地の人の自宅の電話番号(固定電話)を、市外局番からダイヤルする
- ④ プッシュ回線の場合は「1#」 ※ダイヤル回線の場合は音声案内されません。
- ⑤ 伝言を吹き込む(30秒以内)

▶ 災害伝言ダイヤルを「再生する方法」

操作の手順は、すべて音声案内に従って進めてください。

- ①「171」へダイヤルする
- ②「2」をダイヤルする
- ③ 自宅(被災地)の電話番号(固定電話)、または、連絡したい被災地の人の自宅の電話番号(固定電話)を、市外局番からダイヤルする
- ④ プッシュ回線の場合は「1#」 ※ダイヤル回線の場合は音声案内されません。
- ⑤ 伝言を聴く

毎月、1日と15日は、上記の災害伝言ダイヤルの録音・再生の体験ができます。ぜひ、練習のつもりで気軽に利用してみてください。